

調査と情報

編集・発行
 (株)農林中金総合研究所基礎研究部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
 TEL. 03-3243-7331
 FAX. 03-3246-1984
 URL : http://www.nochuri.co.jp
 E-mail : kaneko@nochuri.co.jp

今年四月から五月にかけて、インドと中国を訪ねる機会を得た。ちょっと大げさだが、人口十億のインドと十三億の中国、つまり人口でいえば世界の三分の一以上を占める国を見た訳である。

インドは何度も訪れているが、中国は初めての間であった。ここ二〇年の中国の発展が急速であることは頭ではわかっていても、実際に目の当たりにすると、まさに驚きの連続だった。「北京というごく限られた場所、しかも数日間の観光旅行で何がわかる」というもつともな批判を承知の上であえて言えば、世界の頂点をめざして猛進する大きな流れのなかに十三億の人々が確かに合流したのである。世界の

ブランド商品が並べられた繁華街のショッピングウインドウとオリピック会場招致

の派手なキャンペーンは、かつて異なる文明のあり方をめざした中国が、私たちと価値観を同じくする世界に戻ってきたことの象徴に他ならない。

中国と比べれば、インドの動きはまだはるかに緩慢だ。インドの一人当たり国内総生産(GDP)は一九八五年には二八二ドルで中国の二七二ドルより高かった。しかし、九九年では四三二ドルにとどまり、七八九ドルの中国に完全に水をあけられてしまった。インドのどこに行っても北京の繁華街のように清潔できらびやかなところはないし、街なかや農村には今の日本人には想像もできないような貧困があふれている。それでも、何度も足を運んでいると、インドも着実に、しかも加速度

私たちはどこへ行くのか

をつけて変化していることが実感できる。

皮肉なことに、アメリカ合衆国などという国が影も形もなかったころ、インドは思想や科学を世界に発信する先進国だった。中国はそれを換骨奪胎して独自のものとし、日本もまた中国文明を積極的に受け入れることで文明化したのである。文明の伝播の方向は、現在とはまったく逆だった。

さて、今私たちが乗っているこの「発展」の流れは、私たちがどこに導いていくのだろうか。全人類のアメリカ的な豊かさだろうか。明らかにそれは実現しない夢である。限られた地球の資源と環境は全人類にそれを与えるほど豊かではないからだ。この文明が私

たちを導くところ、それは恐らく「豊かになる権利」をめぐる血みどろの争い、

すなわち「戦争」であろう。

それでは人類にとって致命的なこの「解決」を避ける方法はあるだろうか。それは、現在存在する何十億の貧しい人々が抱く「豊かさ」への渴望を押さえつけることでは断じてない。今の文明とは異なる価値体系にもとづいた新しい文明を創造することではない。しかし、その新しい文明はどこから生まれどのように広まっていくのだろうか。確実に変わるインドと中国で実現する「豊かさ」を喜びながらも、そんなことを思わず考えてしまう印中滞在であった。

(副主任研究員 須田敏彦)

今月のテーマ：農業・農村のIT革命

私たちはどこへ行くのか.....	1
農業・農村におけるIT活用の原点は現場情報 ...	2
ITと農業・農協	3~4
日本のリスク管理と先物取引の可能性 ...	5~6
インターネット時代に対応したJAの情報化戦略 ...	7~8

ぶつくレビュー『IT革命の虚妄』	9
あぜみち	10
虹のかけ橋	11
統計の眼「農村の活性化とインターネット」...	12
編集後記	12